

月山和紙の 手触りと あかりの ぬくもりに 魅せられて



モミジ・カエデなど月山の自然素材を表面に織り込んだ「SHIZU」シリーズの作品。

長い間、西川町で受け継がれてきた月山和紙。
いま、その伝統の手漉き和紙に
地元若き工芸作家の手によって新しい命が吹き込まれ、
心を癒す優しい「あかり」になりました。

取材/渡辺和志 デザイン/矢直樹 撮影/奥山茂俊



和紙をちぎったり穴をあけたり 独自の手法であかりを演出



月山和紙工芸作家・せいのみゆみさん
西川町産の楮（こうぞ）を使って三浦一之さんが
漉いた月山和紙を素材に、作品づくりに取り組んでいる。

幼稚園でのお面づくりを ヒントにして独学で オリジナルの技法を考案

「つくり方は独学で、ご自身のオリ
ジナルだそうですね。」

「**せい**の 幼稚園のとき、風船に紙を
何枚も貼ってお面をつくったことが
ありました。それで、同じような方法
でランプシェードもつくれるのではな
いか」と試行錯誤して自分なりの技
法を考えました。」

ちぎって貼ると、和紙の重なりで濃
淡や表情がでますから。
和紙に穴をあけたり、カットする
のも私のこだわりで、そこから漏れる
あかりが周りの壁に映ることで、単
体で光らせるより空間や雰囲気を広
がりができるんですね。」

ランプシェードは、あかりをつける
ときとつけないときがあるので、日中
は和紙のオブジェとして、夜はあかり
を楽しんでもらえるような、真っ白
な月山和紙と色のついた和紙を組み
合わせたランプシェードもつくりたい
と思っています。」

「**せい**の 東京で会社勤めをしていた
んですが、家が月山志津温泉で旅館
を営んでいるので、旅館の改装を機に
こちらに帰ってきたんです。
そのとき、玄関のあかりを、おもて
なしの心を表すようなものに変えたい
と思っただけですね。もともと何かを
つくるのが好きなので、まず家にたく
さんある和紙を利用してランプ
シェードをつくってみようかと。それ
が、きっかけでした。」

「**せい**の 西川町の岩根沢で、江戸時
代から西山和紙が漉かれていました
が、高度成長期になると紙漉きをす
る人が急激に減って、飯野博雄さん一
人になったんです。それで、飯野さん
—まず、月山和紙の歴史についてお
聞かせください。」

「**せい**の 西川町の岩根沢で、江戸時
代から西山和紙が漉かれていました
が、高度成長期になると紙漉きをす
る人が急激に減って、飯野博雄さん一
人になったんです。それで、飯野さん



「月山和紙で、生まれ育った西川町志津や月山の自然をテーマにした
作品をつくりたい」とせいさん。



月山の雪解け水のようなイメージで制作した
「しずく」シリーズのランプシェード。

